

おおさき

発行日:令和7年2月

発行者:宮城看護協会大崎支部

編集:宮城看護協会大崎支部

広報委員

大崎支部長挨拶 佐藤真澄

雪の季節もそろそろ終わりを告げる足音が少しづつ感じる時期になってきました。

皆様いかがお過ごしでしょうか。

昨年は1月の能登半島地震、9月には能登半島豪雨など災害が発生し、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。そして災害支援として看護職派遣等の調整にご苦労された看護管理者の皆様、現地に派遣された皆様には敬意を表したいと思います。

11月には多職種連携研修会で「災害における医療と介護の連携」というテーマで多くの方に参加していただきありがとうございました。第1部ではやまと在宅診療所栗原の土屋菜歩先生による「災害における医療と介護の連携」というテーマでの講演会。第2部でのグループワークでは災害発生時の初動として地域や施設の役割について情報共有ができました。それぞれの課題を元に各施設のBCPの見直しや次回の災害についての研修会に繋がるように「大崎地域に応じた地域包括システム」を少しづつ作れるようにしたいと思います。次年度も大崎支部へのご協力とご理解を御願いしたいと思います。

看護のひろば

令和6年10月19日(土)・20日(日)に大崎市古川保険福祉プラザにて「健康と福祉のつどい」が開催されました。今年は「みんなで取り組もう おおさき3+1(プラスワン)」の健康習慣をテーマに健康作りに取り組む団体が参加し、健康の大切さ伝えるとともに、血管年齢やインボディー測定の健康チェックで自分自身の状態を確認することができました。

看護協会が実施する「看護のひろば」は19日に参加しました。今回は中高生への看護体験や進路相談、子供白衣体験を企画し24名の参加がありました。親子連れが立ち寄る方が多く、普段体験することのできない白衣体験や血圧測定などの仕事体験を楽しんでいる様子がありました。

健康と福祉のつどいへの参加者は健康に関心のある高齢者や親子連れが多く狙いとしていた中高生の参加はありませんでした。

今後、中高生の参加するイベント会場などを検討し看護に関するPR活動を行って行きたいと思います。



<研修報告>

令和6年度大崎市多職種連携研修会が11月5日(火)大崎市役所にて「個別避難計画について」「災害時における医療と介護連携」という2つのテーマで開かれました。(参加者104名)社会の急速な高齢化に伴って医療・介護分野では根本からの変革が求められており、その最も核となるのが在宅医療と言えます。2011年東日本大震災、2016年熊本地震、2024年能登半島地震など大規模な自然災害が起きた際、在宅医療で最も必要なのは様々な施設間・職種間の「連携」です。

「災害時における医療と介護連携」についてやまと在宅診療所栗原 土屋菜歩医師より①災害を知る②災害時の現場で起こりうること③災害時に向けた連携と準備という3つのカテゴリでご講演頂き、医療・福祉に携わる様々な業種が平時から有事に備えることの重要性(BCP:事業計測計画の策定)や災害時に起こりうる問題などを知ることができました。

その後地域別グループ編成され、大震災を想定した際の各施設や職種の役割・課題についてグループワークを行いました。自施設での災害時の経験を情報共有したり、自施設での今後の課題や悩みについて助言等もあつたりと活発な意見交換がなされ時間があつという間に過ぎてしまいました。在宅医療は生活そのものを支える医療と言っても過言ではありません。災害時の有事だけでなく平時から連携をうまく作り上げていけるかどうかが、今後の在宅医療推進における大きな鍵となると感じました。そのためには医療・福祉施設のみならず市町村行政が全体を把握して、システムとしてどう展開していくか計画を立てていくことが必須だと思いました。参加後のアンケートでは災害時にどうすべきか再考するきっかけとなる実り多い研修だったという意見が多数を占めていました。今後は思いを具現化したり、問題解決できるよう私たち看護に携わる立場として職場・行政へ働きかけていきたいと思いました。

